

経営比較分析表（令和2年度決算）

栃木県 岡本台病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	精神科病院	精神病院	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
1,955,402	13,248	非該当	非該当	15:1

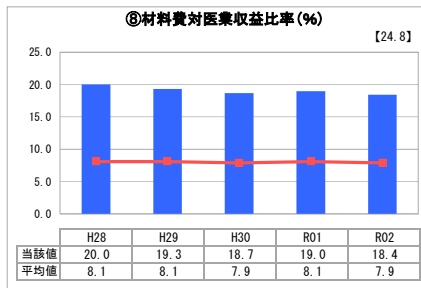
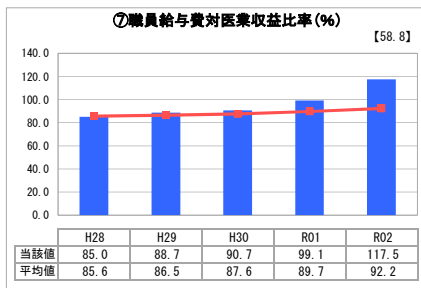
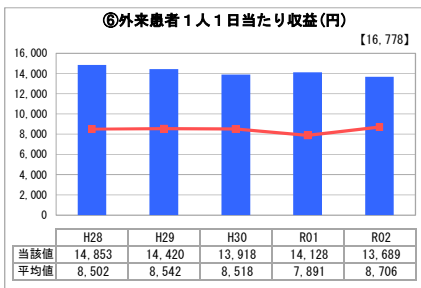
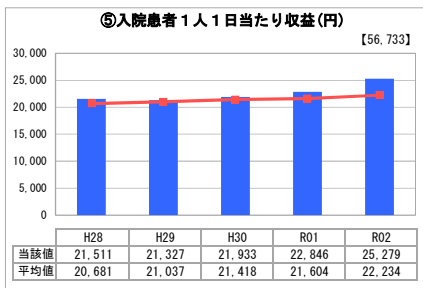
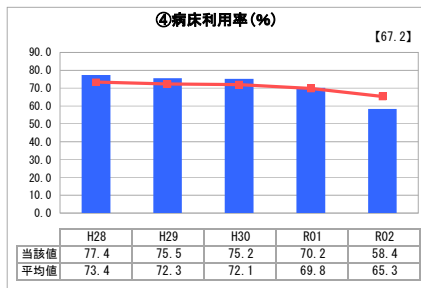
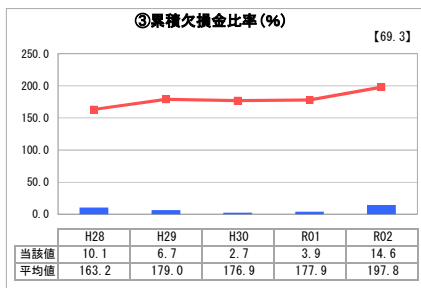
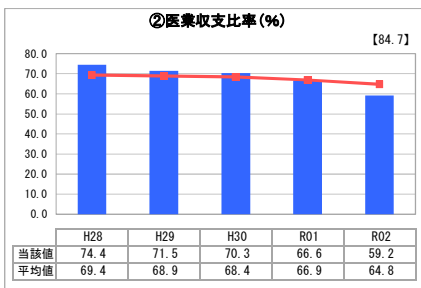
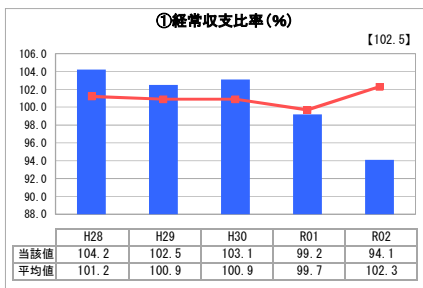
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

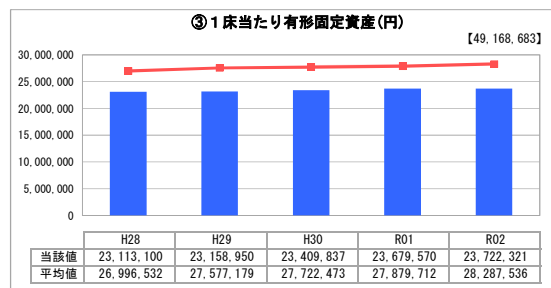
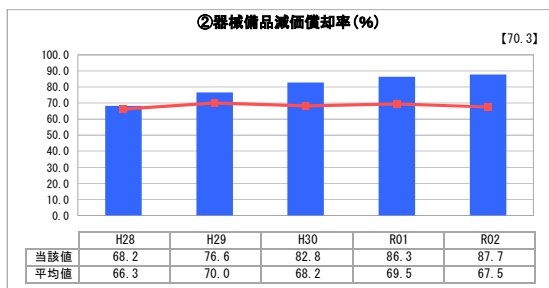
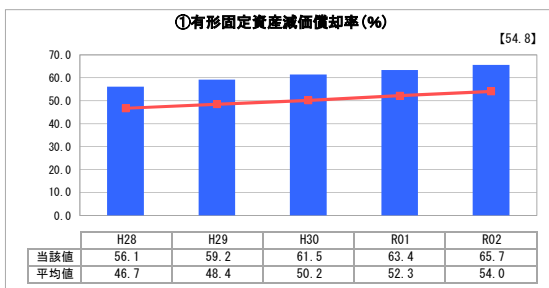
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
221	-	221
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[]	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、精神科緊急及び救急医療、アルコール・薬物依存症医療、医療観察法医療など、精神疾患に係る高度・専門の医療を担う県の基幹病院としての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率、②医業収支比率
経常収支比率は、入院・外来患者数の減少により、令和元年度以降100%を下回っており、医業収支比率とともに類似病院の平均を下回っている。
- ③累積欠損金比率
前年度から悪化したものの、各年度とも類似病院の平均を大きく下回っている。
- ④病床利用率
入院患者数の減少により前年度から悪化しており、令和2年度は類似病院の平均を下回った。
- ⑤⑥患者1人1日当たり収益
各年度とも類似病院の平均を上回っている。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率
老朽化が進行しており、類似病院の平均を上回っているが、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めている。
- ③1床当たり有形固定資産
各年度とも類似病院の平均を下回っている。

全体総括

令和元年度以降、経常収支比率が100%を下回っているほか、職員給与費対医業収益比率が増加傾向にあり、材料費対医業収益比率も類似病院と比較し高い水準で推移している。そのため、効率的な病院運営による病床利用率の向上など、収益の確保に努めるとともに、院外処方の推進による薬品購入費の減など、費用の削減に取り組む必要がある。

引き続き、経営改革プランに基づき、経営の健全化に取り組むとともに、地方独立行政法人化に向けた準備を進めていく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和2年度決算）

栃木県地方独立行政法人栃木県立がんセンター 栃木県立がんセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	I 方	が
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	40,068	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

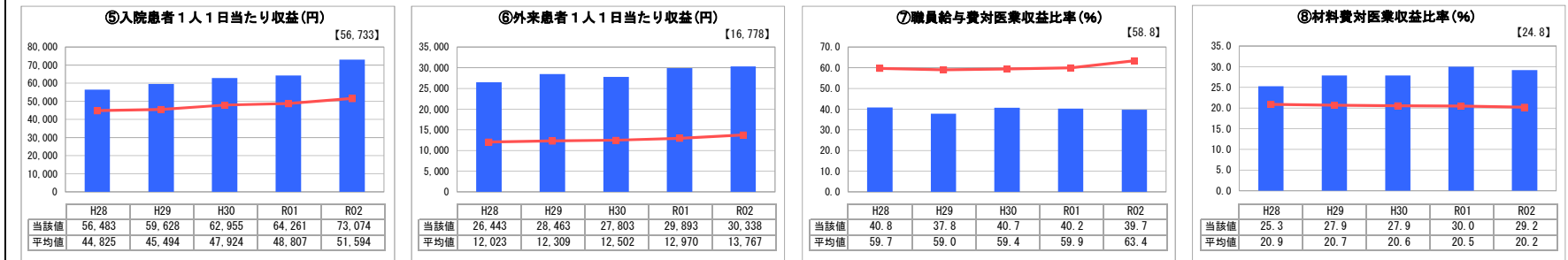
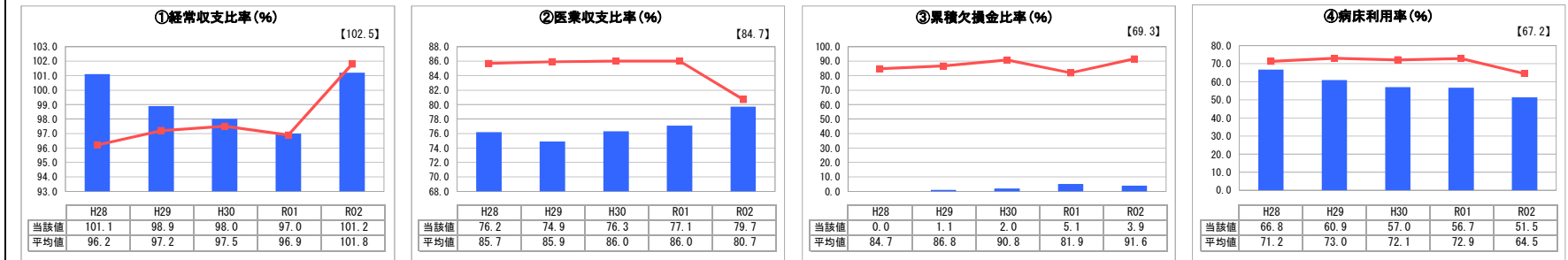
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
291	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	291
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
210	-	210

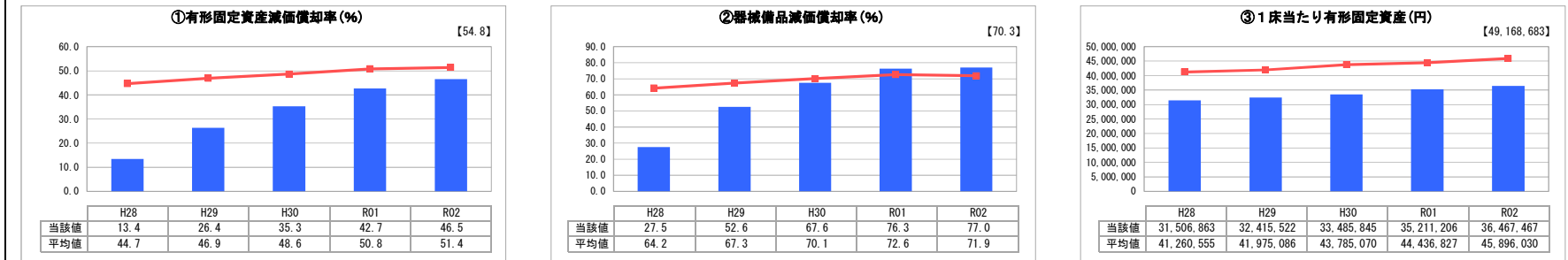
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成28	-
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

当センターは、県民が求める高度で専門的ながん医療を安定的に提供するとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として県内における医療水準の向上・均てん化を推進するなど、公的使命感を果たしながら県民の健康を確保及び増進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、③累積欠損比率
経常収支比率が100%を上回り、累積欠損比率が減少した。

②医業収支比率、④病床利用率
新型コロナウイルス感染症患者の受入病床確保に伴う一般病床の休床等による入院患者の減により、病床利用率が減少した。
医業収支比率は前年度から改善したものの、類似病院の平均を下回っているため、入院・外来患者を確保する等により医業収益の増加に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率
平成28年度の地方独立行政法人化以降、減価償却率は増加し老朽化が進行しているため、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めている。

③1床当たり有形固定資産
各年度とも類似病院の平均を下回っている。

全体総括

令和2年度は、入院・外来患者数は減少したものの、患者単価の増等により医業収益が増加し、4年ぶりの黒字となった。
一方、医業収支比率は類似病院の平均を下回っている。
がん治療の均てん化が進んでいることや、新型コロナウイルス感染症患者の受入病床確保に伴う一般病床の休床等から、入院患者数が伸び悩んでいる状況ではあるが、医師の柔軟な採用等、地方独立行政法人の特長を活かした取組により、入院患者を確保し、経営改善に努める必要がある。

経営比較分析表（令和2年度決算）

栃木県地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター 栃木県立リハビリテーションセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	21,957	非該当	非該当	15：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

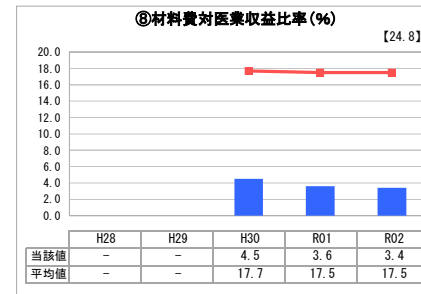
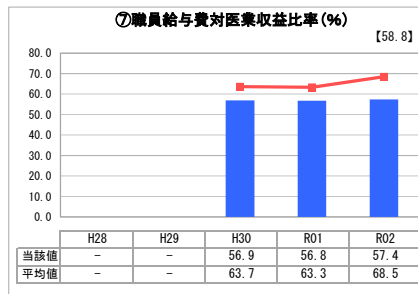
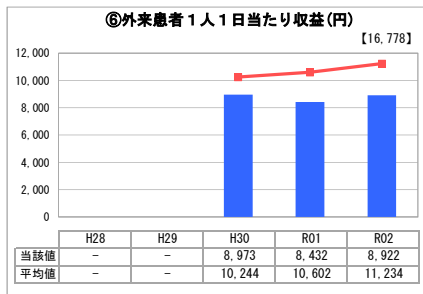
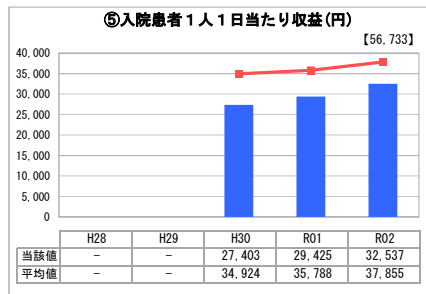
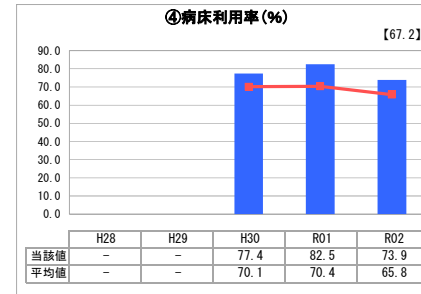
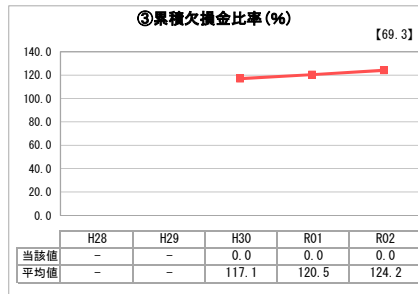
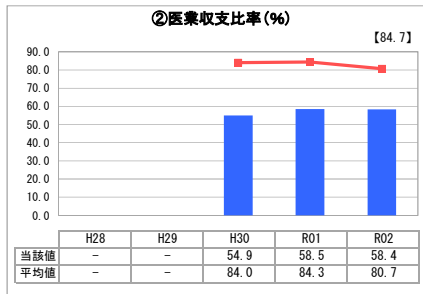
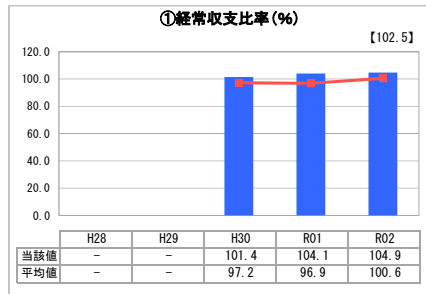
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
153	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	153
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
153	-	153

グラフ凡例

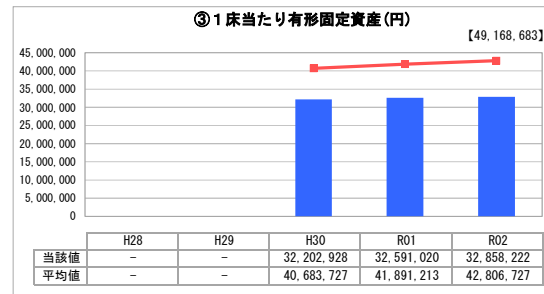
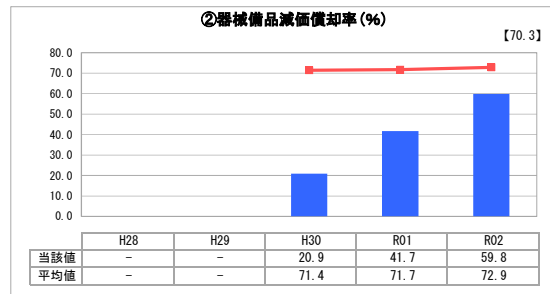
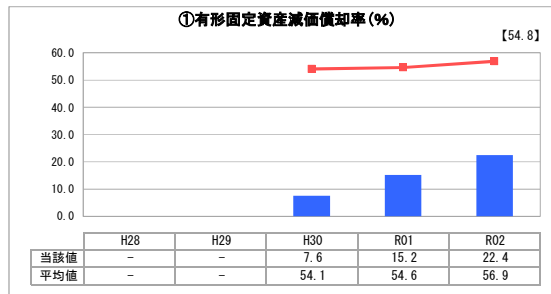
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成30	年度
-	-	-

I 地域において担っている役割

当センターは、心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の県民に対し、質の高い総合的なリハビリテーションを安定的に提供するとともに、県内における医療及び福祉の向上を図るなど、公的使命を果たしながら心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 医業収支比率
平成30年度の地方独立行政法人化以降、経常収支比率は100%を上回っているが、医業収支比率は類似病院の平均を下回っているため、引き続き経営改善に取り組む必要がある。

④ 病床利用率
類似病院に比べ、高水準を維持している。

⑧ 材料費対医業収益比率
各年度とも類似病院の平均を大きく下回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品減価償却率
平成30年度に地方独立行政法人化したため減価償却率は低水準にあるが、老朽化が進行しているため、定期的な設備等点検の結果に基づき、計画的な更新を実施している。

③ 1床当たり有形固定資産
各年度とも類似病院の平均を下回っている。

全体総括

経常収支は3年連続黒字となっているが、入院・外来患者数の減により医業収益は減少しており、依然として、医業収支比率が類似病院の平均を下回っている。
また、患者1人当たりの収益も類似病院の平均を下回っている。
引き続き、地方独立行政法人の特長を活かし、随時採用等により医療スタッフを確実に確保すること等を行い、収益性の高い病院運営に努める。